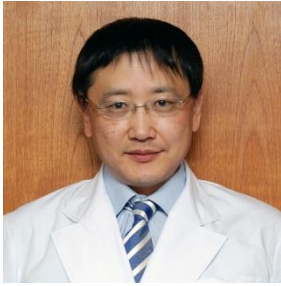


# 「大和心の目覚めが弥栄を招く」



加藤 博 (かとうひろし)

1958 (昭和33) 年1月生。

慶應義塾大学工学部卒業後、6年間の日立系貿易商社の日製産業(株)勤務を経て、1987 (昭和62) 年、東邦大学医学部に入学。同医学部卒業後、東邦大学大橋病院第3外科消化器外科研修医、東京女子医大第2病院消化器内科、目黒病院内科、岩手県滝沢中央病院内科、岩手県河南病院を経て、2006 (平成18) 年、特定医療法人 弘慈会 宮古第一病院に初代病院長として就任。2012年1月、同病院CEO (経営最高責任者) に就任、現在に至る。

【宮古第一病院】岩手県宮古市保久田8-37

TEL:0193 - 62 - 3737

FAX:0193 - 62 - 3739

<http://miyakodaiichi-hp.or.jp/>

日本は、世界は、今大きく変わろうとしています。国民の皆さんもそう感じている方が多いのではないのでしょうか。

今は何でこんなに暗いことが多いんだろう、なんで世界中で争いが絶えないんだろう、何で何をやっても今一つ楽しいと感じないんだろう、何で周囲ばかり気にして本音で生きられないんだろう、何をやっても上手くいかないのは何故なんだろう、この社会全体を包み込む暗く重い閉鎖感は一切何なんだろう。

今、そんなふうに暗くて将来に明るい希望を持たない方が増えているのではないのでしょうか。

でも、僕はあまり心配していません。夜明け前は一番暗いのです。星と月が覇権を争う闇夜も太陽、そう、日の本が天に上がれば全て消え去ります。そうです。日の本の国、日本が真の大和心に目覚めれば世界はどんどん明るくなっていきます。灯台もと暗しと言いますが答えは世界ではなく、日本人の心の中にあったのです。

## 「ブラックパスだらけの世界」

我々日本人は戦後、その最も大切なことに気付かないように、素晴らしい日本古来の和と助け合いの心「大和心」を忘れてしまうような教育を強いられて参りました。しかし日本経済が高度成長を終え、バブルがはじけて、不景気と閉鎖感が世の中を包み込むようになってから、政府や官僚が何をやっても景気がさっぱり良くならない、一体何故なんだろうと日本人の方々は誰もが不思議に思っているのではないのでしょうか。

アメリカを中心とする欧米諸国が提唱する資本主義、貨幣経済、自由競争、そして、その世界均一化標準を示すグローバルスタンダードですが、その通りにやっても上手くいったのは最初だけ、バブルがはじけて不景気になってからは何をやっても上手くいかない。

これは何か違うんじゃないだろうか？少なくとも日本人にはどこか合わないんじゃないのかな？そんな風に感じてきた国民の皆さんも多いはずですよ。

実は、僕も色々と悩んだり、今までに経験してきたことから僕なりに考えてみると、自由競争や合理主義、資本主義は一見素晴らしい考えに見えるのですが、それだけでは世界は決して良くなる。良くなるどころか、やればやるほど、世の中は争いと奪い合い、強い者勝ちの世の中になってしまう。

まるで、日本の湖にブラックバスを放つと、湖に元々生息していた色々な魚が全てブラックバスに食べられて、湖はブラックバスだらけになってしまう。中には強いブラックバスも弱いブラックバスもいるけれど、いずれにしても弱肉強食の世界であり、そこで生き残る為には自分もブラックバスになるしかない。色々な個性のある魚達が共存共栄していたはずの湖が、ブラックバスだらけの均一化された弱肉強食化された世界になってしまうのです。

そんな世界は実に殺伐としていてつまらないと思われませんか。ブラックバスだらけになった世界ではいずれブラックバス同士が共食いを始めます。最後は全て滅んでしまうでしょう。そんな湖にセーフティネットを張って仮に弱い魚達を保護したとしても、保護された魚達はもはや生きる希望もやる気も無くしてしまい、網の中からは出る気になりません。セーフティネットから出るには自分もブラックバスになって、自分より弱い魚を食べねばならないからです。そんな勇気も自信もありません。

今のはたとえ話ですが、世界が今まさにそんな風になってきていると感じている方も多いのではないのでしょうか。いつまで、ブラックバスの振りをして生きねばならないのか、なぜ共存共栄の、争いや奪い合いの無い、そう、強いものも弱いものも、大きいものも小さいものも、長いものも短いものも、どんな個性のものも、みんな仲良く楽しく共存共栄できないのだろうか、実は日本人の多くの方がそう思われているのではないのでしょうか。

このように、残念ながら、資本主義、自由競争、合理主義だけでは、実際はその通りにやっていると、意外なことに他の人々を、周囲の誰かを、他の企業を、他の国を踏み台にしない限り、いずれ立ち行かなくなるものなのです。

## 「貨幣制度より豊かになれる方法」

ところで皆さんは、こんなに律義で真面目で働くのが大好きで、その上優秀で器用で人の良い日本人が、こんなにいっぱい朝から晩まで一生懸命働いても、思うほど生活が豊かにならないのは何故だと思われますか？色々な意見があり、どれも各々正しいと思いますが、僕の意見は突拍子もありません。あまり突拍子もない話なので、ここからはしばらくたとえ話として聞いてください。

実はそれは、お金という存在があるからです。世の中に貨幣制度と言うものがもし無ければ、今の3分の1くらい働けばきっと今以上の豊かな生活が実現できると思います。

その理由は、お金がなければ様々な方法で不当に搾取されることが無くなるからです。

お金が無いと言っても物々交換ではありません。物々交換ではお金が無くなってもさして変わりはありません。むしろ不便になるでしょう。

つまり、全てタダにしてしまえば良いのです。全てタダですから何を買っても、どこに行くのも、何をするのもすべてタダです。全てタダですから貯金も無くなりますが、借金も無くなります。所有しても良いですが、いつでも欲しい物がタダで手に入るので所有しなくても構いません。働くのも自由だし、好きなだけずっと遊んでいても何もかも全てタダです。当然、給料もなくなりますが、何を買っても何をしてどこへ行ってもタダなので、全く困ることはありません。

ずっと遊んでいても、皆さんきっといつかは退屈して、そのうち自分の才能を使って何かやりたくなるでしょう。そうしたら、自分が楽しいと感じること、ワクワクドキドキする仕事を好きなだけやれば良いのです。何故ならば、それこそが皆さんの天から与えられた才能であり、天命とも言えるものだからです。

きっと世界中のみんなが自分のワクワクドキドキする仕事を自分から進んでやるようになります。そこに貧富の格差も無ければ、犯罪も存在しません。家や金庫に鍵を掛ける必要もありません。全てタダだからです。

もっとも食べるものが無くなるとは生きられませんから、もしそんな世界になった時は、きっと農業が中心になるでしょう。

と言っても現在の発達した文明ですから、昔のように朝から晩まであくせく働く必要なんてまるで無いのです。

あまりにも突拍子もない考えなので皆さんにきっと笑われてしまうかもしれませんね。

皆さんのお考えの通り、今すぐそんな世の中になることは中々難しいでしょう。何故なら、人間であれば誰にでも「我」があり、他の人より少しでも認められたいとか、他の人より自分の意見をまず聞いてもらいたいとか、他の人が自分より得をしている気がするとか、色々と考え悩むものだからです。これは当たり前のことで、何も恥じることではないと思います。

それでも、もし、日本人が真の大和心に目覚めて、自分や大切な家族や恋人と同じように他の人を愛するようになれば、ごく当たり前のように、ごく自然に、いつの間にか、誰も気付かないうちに、それに近い世界になっているかもしれません。

世の中の人々の心に以前にされた事への恨みや、執着や嫉妬心や我よしの心、つまり「我」が強いうちはなかなか実現しないでしょう。

そんなミロクのような世の中になったらそれは素晴らしいことではと思いますが、何も無理をして今すぐにそうなることはないと思います。よほどモラル（人徳）がお互いに高くなければ、よほど他の人を信じられねばとうてい無理な話だからです。背伸びして良い人になりすぎるとストレスで長く続きませんものね。やっぱり、今はまだ清廉潔白な世界よりもユーモアと可愛くてお茶目ないたずらがある世の中の方が僕は大好きです。だからと言っ

て、凶悪犯罪や戦争や意味のない貧富の格差や虐待や経済的、または軍事的に支配された監視国家みたいなものは大嫌いです。

お金と言う存在があると、組織的あるいは民族的、あるいは宗教的、あるいは国家的規模で大義名分の上での要求や押しつけ、あまり意味のあるとも思えない税金や寄付、またはマネーゲーム等で巧妙に搾取され、格差社会、支配する側とされる側という2極化がどうしても進んでいきます。だから、お金が無い世の中はさすがに無理でも、あまりお金に支配されない世の中にまずなれば良いなあと考えています。

人間はお金の力で今の文明を、今のシステムを作り上げました。それはそれで素晴らしいものです。もし、世の中にお金と言う存在が無かったら、貨幣制度や自由競争や資本主義や合理主義が無かったら、これ程速やかに高度な文明は実現しなかったでしょう。ただし、これからは、お金は自分のささやかな楽しみに使った残りは、世の中や世の中の人を幸せにする為だけに使うことにして、お金の為にお金を使うような、お金に支配されてマネーゲームを行うような、お金の為に戦争や犯罪を起こすようなことはできる限り避けたいものです。

## 「否定せず、水に流し、許し、感謝し合い、助け合う心を復活させよ」

では、どうすれば良いかと言うと、実は日本人の心の奥底にその答えがあるのです。

日本人ってとてもいいなあっていつも思うのは、何よりも許せる心、悪い事を忘れることが出来る心、他人や他国からされた悪い事もいつの間にか水に流して忘れてあげることが出来る心があるところです。

原爆を2発も民間人の生活していると真ん中に落とされても、あまり他国を恨んでいない、とてもとても辛くて悲しい事だけれど、そのことで他国の人をそんなに恨んだりしない。そんな民族は世界広しと言えど、そうそういるものじゃありません。つまり元々日本人は懐がとっても広いんです。

たとえ、外から悪いものや悪い考えが日本に入ってきて、長く日本にいるうちにいつの間にかそれが良いものになってしまう。悪いものを叩き潰したり、否定したりせずに良い部分をどんどん引き出して、いつの間にか悪いものを良いものに変えてしまう。つまり、悪いものも生かしてしまうような力が元々日本には、日本人にはあるのです。

これはとても大切な事で、たとえ悪いものであったとしても、それを真っ向から叩き潰したり、力にもものを言わせて無理やり良いものに変えようとする、意外なことに、物事は良くなるどころか、どんどん悪くなってくることが多いのです。これは叩き潰された方が、それを恨みに思っただけでやり返すことにより憎しみの連鎖となるからです。つまり、悪いものは叩き潰すのではなく、抱きかかえ、抱き参らせ、自ら改心させないと決して無くなることはありません。叩き潰すこと自体が悪と言えるものだからです。

日本古来のこの心は分かりやすく言えば、「おもてなしの心」であり、「和と助け合いの

心」であり、「おかげさま」の心であり、すなわち日本古来の「大和心」と言えるものなのです。このように、なんの目に見える得があるわけではないのに、人について親切に「おもてなし」してしまう、人に「おかげさま」と感謝してしまう、困った人がいるとつい助けたくなくなってしまふ、ごく自然に決して建前ではなく本音でそうできてしまうのです。この天から与えられたとも言える素晴らしい才能「大和心」を、もし、各々の日本人が各々の個性に合わせた天職の分野で、自由自在に思う存分に発揮できたら、世の中の様々な争いや、あらゆる不幸な出来事などほとんど無くなってしまふのではないかと思える程です。少し日本人をほめすぎたかもしれませんが、この素晴らしい才能「大和心」を今こそ日本のために世界のために役立てるべきです。

欧米諸国がリードしてきた資本主義、貨幣経済、自由競争により、とても速やかに効率よく物質文明を発展させることができました。しかし、ここにきて明らかに行き詰まってきました。弱肉強食の物質偏重のこれらの考え方だけでは世の中の中心はブラックバスだらけになってしまひ、後はもう共食いか奪い合いしかないような状態に近付いてきていると言っても過言ではないでしょう。

その理由は、そこに「大和心」が抜けているからです。だからこそ、今こそ日本古来の「大和心」が大切になってきているのです。

つまり、欧米諸国が中心になってお金の力で作り上げてくれた、発展させてくれた物質文明を決して否定することなく、無駄にすることなく、その素晴らしいシステムをそのままに、その素晴らしい恩恵に感謝しつつ、逆に今までの物質偏重や弱肉強食的考え方によって世界に生み出された歴史上の全ての悪い事件や酷い仕打ち、悲惨な出来事には各々充分反省した上で出来るだけ許してやり、お互いにもう全て水に流して、そこに日本古来の「大和心」を合体させる。

欧米が中心になって作り上げた物質文明に日本古来の「大和心」という魂を入れることによって、これから世界は素晴らしいものになっていくのです。

## 「津波から逃れた不思議」

実は、僕は2011年12月まで、東日本大震災の大津波によって甚大な被害を受けた岩手県宮古市の宮古第一病院という所で6年間病院長を務めて参りました。

2011年3月11日の大津波の日は病院の周囲を津波に取り囲まれ、付近一帯は危機的状态に陥りました。ところが、当院では1年前にあらかじめ作っておいた防潮堤により、かろうじて地下のボイラー、配電盤、自家発電装置等の重要施設への浸水を免れ、奇跡的に無事だったのです。不思議なことですが、防潮堤の高さはそれほど高いとは言えず、せいぜい1m程度だったのですが、その防潮堤の上でもなく下でもなく、まさにギリギリの高さまで津波が押し寄せ、かろうじて地下施設への浸水を免れたのです。まるで津波が防潮堤の高さに合わせてくれたようにさえ感じました。

かつて歴史上、当病院の敷地内に津波が来たことは1度も無かったそうで、僕が大震災の1年前に防潮堤の建造を提案した時は周囲の誰もが驚きました。僕も何故だか分からないけれど、その時急に津波が怖くなったのです。もしかしたら直感だったのかもしれませんが。僕は靈感や霊能力などは全く無い男で、神様の御告げどころかUFOすら見たこともありません。だから、僕の直感なんてあまり当てにならないんですが、その時は本当に今すぐに防潮堤を作らねばと思いました。そこで、その気持ちに素直に従い、周囲の職員みんなが当惑する中、防潮堤に加え入院患者さんと職員の分として330着の救命胴衣と、万一病院が孤立した時の物資輸送の為の救命ボート6隻等を津波の来る1年前に用意しておきました。しかし、まさか1年後に本当にそれらが必要になるとはその時は想像もできませんでした。

さらに不思議と言えば不思議、偶然と言えば偶然なことには、大震災は3月11日でしたが、その年の1月11日に何故か分かりませんが、急に思い立って鹿島神宮に御参拝に行っていたのです。鹿島神宮には要石という御神体があって、実は地震を押さえる神様でもあることを後で知りました。鹿島神宮に御参拝する前日、宮古から盛岡へ行く国道106号線を車で走っていると、道路上に夫婦らしき2頭の鹿が飛び出してきて道を塞ぎました。こんなことは初めてのことだったのでちょっとびっくりしました。そんなこともあって、なんとなく鹿島神宮の神様が当病院と職員や患者さん達を守って下さったのかな？と思っています。

## 「経営の立て直しができた理由」

当院は僕が病院長として就任した当時は岩手県宮古と言う土地柄の為に医師不足、看護師不足などで倒産寸前の経営状態でした。

それを短期間で立て直すことができたのは、6年間の貿易商社勤務時代のノウハウを最大限に活用したこともあったのですが、何よりも職員全体のモラル（職業的道德心）の高揚でした。派閥を作るのではなく、各々の立場の職員の各々異なる意見をできる限り生かすようにして、日本古来の和と助け合いの心「大和心」を中心に据えてやっていったのです。自分で言うのもなんですが、こんなに職員全員が明るくて、毎日働くのが楽しくて仕方がないような病院も企業もそうそう無いと思います。最初はパツとしなかったのですが、末広がりになり、今では職員の1人1人がまさに社長になったつもりで一騎当千の働きで患者さんの為に尽くしてくれています。日本中がうちの病院みたいになったら、争いも派閥も無くなり、毎日明るくて楽しくなるのになぁといつも思っています。

医療資格者も医師、看護師に加え、全国から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など国家資格を持ったリハビリスタッフが50名以上集まって来てくれたおかげで、今ではリハビリテーションを主軸にした病院運営を行っています。

リハビリテーションと言うと、失った機能を取り戻す辛く苦しい作業という後ろ向きな

イメージも一般にはあるのですが、そうではなく当院では青春というテーマのもと、患者様に夢と希望を持っていただく明るく前向きなリハビリテーションを常に心がけています。青春時代も辛く悲しい時はあったと思いますが、常に前向きな気持ちで取り組むことで素晴らしい経験となります。そんな「青春」の力をリハビリに生かせないかと考えました。そんな中で生まれた「青春リハビリテーション」という明るく前向きな言葉は当院のリハビリを大きく変えてくれました。リハビリの治療を行うスタッフも、リハビリを受ける患者さんも、明るく前向きにリハビリに取り組むことで治療効果が大きく上がったのです。

## 「青春リハビリテーション」

そこで、この「青春リハビリテーション」を岩手県中に東北中に、いや全国に広めたらどうだろうかと思いました。最初は皆さんにすごく違和感がある言葉でした。

「青春」は一般に前向きで明るいイメージがありますが、それがリハビリテーションの一般的なイメージとかけ離れていることが多いからだと思います。そこで、この「青春リハビリテーション」という言葉を岩手県中に、あらゆるメディアを使って広めていったらどうだろうと思い立ち、早速県内のテレビ、ラジオ、生活情報誌、スポーツ専門紙、新聞、雑誌、盛岡市内の看板7台、盛岡市内のバスの看板70台などで岩手県を中心に青森、秋田など北東北にどんどん露出していったのです。

ちなみに僕は良いと思ったことはすぐにやることにしています。はじめは違和感のあった「青春リハビリテーション」という言葉でしたが毎日のように見ることによって、だんだん県民の皆さんにまるでメガネが顔に馴染むように馴染んでいったのです。もう3年になりますが、今では岩手県の子供から大人までほとんどの方々が、この「青春リハビリテーション」という言葉を認知して下さったと思います。そうになると、不思議なことに「青春」と言う力の強いイメージでリハビリテーションのイメージがどんどん明るく前向きになっていったのです。「青春リハビリテーションという言葉で岩手県のリハビリのイメージが大分明るくなったなあ」と県内の皆様に時々言われると、とても嬉しくなります。

「青春リハビリテーション」と共に、当院のモットーである「明るく、爽やか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」と、日本古来の和と助け合いの心「大和心」の大切さを強く県内のあらゆるメディアを使って訴え続けています。

このモットーは、実は数年前に島根県の出雲大社に御参拝に行った時に、たまたま心に浮かんだイメージです。勝手に出雲大社の御神徳なのではと解釈しております。

出雲大社に列車が近付くにつれて、「明るく、爽やか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」というイメージが頭の中にどんどん膨らんできたのです。当院では上の立場になればなる程、このモットー通りにやろうと職員みんな励まし合っています。

神社と言えば、やはり、数年前に神奈川県箱根神社で偶然知り合ったノソラという音楽グループの「優しく強く」と言う曲を、現在「青春リハビリテーション」のテーマソ

グとして、テレビやラジオのコマーシャルで使わせて頂いております。全国的に有名な箱根神社で、土曜日であったにもかかわらず、なんとその時は参拝客が僕等とノソラの代表、青伊真さんとその御家族だけだったのです。まことに不思議な出逢いでしたが、家族への感謝の気持ちを込めて作ったというその曲「優しく強く」を聞いて、すぐにこれこそ「青春リハビリテーション」のイメージにぴったりだと思いました。

## 『 大 和 心 の 復 活 』

現在、日本の政界は揺れに揺れておりますが、残念ながら、どなたが首相になられても、どの党が与党になろうとも、政治だけでは日本は決して良くなりません。昨今の投票率の低さは国民が何となくそのことに気付いてきたからでしょう。いつまでも性懲り無くお互いの政敵をお互いに非難し合うようでは、どなたが首相になられても和と助け合いの心「大和心」を生かせないと思われるからです。

このような現在の政治の体質は、もちろん他国からの圧力や支配、マスコミの誘導、利権の絡んだ問題などもありますが、第一は我々国民のモラルが反映されたものであるとも言えます。

もし各々の国民が国が良くなることよりも「今だけ、金だけ、自分だけ」といった我よしの考えだけで政治家を選ぶようになれば、当然選ばれた政治家も我よしの考えになります。現在の官僚や政治家のレベルそのものは、良くも悪くも我々国民のモラルが反映されたものに他なりません。

我々もマスコミに誘導されて政治家や官僚を責める前に、まず我々自身のモラル（徳）を上げましょう。そうすれば最初はパツとしなくても末広がりになり、いずれ共存共栄（いやさか）の状態に至ります。

そのためには、何よりもまず各々の国民の皆様が日本古来の和と助け合いの心「大和心」に真に目覚めることが大切です。

その際に気を付けることは、自分を決して犠牲にしないことです。まず自分自身が「大和心」で幸せになりましょう。次に自分から溢れ出る幸せで家族や恋人を幸せにしましょう。そうしたら、そこから溢れ出る幸せで周囲の友人や会社の同僚を幸せに。こんな風にして自分から溢れ出る幸せを日本国中に広げて行けば良いのです。そうすれば我欲は大欲（全てを幸せにする欲）に変わっていきます。最後はアメリカもイギリスもドイツもフランスも中国もロシアもイランも北朝鮮も韓国も台湾も世界中の国々をみんな幸せにしてしまえば良いのです。「大和心」に目覚めれば決して不可能ではありません。

以下は2012年11月23日勤労感謝の日に朝日新聞の青森・秋田・岩手版に掲載されました僕の意見広告からの引用です。



「答えは世界ではなく、日本人の心の中にあった」

～日本古来の和と助け合いの心「大和心」を中心にすれば

経営も国政も素晴らしいものになっていく。～

「明るく、さわやか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」をモットーに！

例えば、日本的経営はグローバルスタンダードや、能力主義、合理主義だけでやっていると、いずれ立ち行かなくなり、より競争力を高めるため、過重労働やリストラ、低コスト化のための仕入れ先や下請け企業への圧迫、企業買収、工場の海外移転などに至ります。

国家レベルでも弱肉強食や自国の目先の国益や利権だけを考えた「今だけ、金だけ、自分だけ」の我よしのやり方では、最初は経済が高度成長して暮らしむきが豊かになったように見えますが、いずれは立ち行かなくなり、次第に不景気になり失業者が増え、しまいには大義名分の上での戦争や経済的・軍事的侵略、実質的な植民地支配などを陰で画策する国まで出てきます。

実際、欧米諸国がリードしてきた資本主義、貨幣経済、競争社会は自由主義経済を発展させましたが、その一方でグローバルスタンダードという美辞麗句のもと、格差社会、支配する側とされる側という2極化を生み出し、近年世界の人々の心は加速度的に荒廃してきているようにも思えます。「今だけ、金だけ、自分だけ」といった弱肉強食の物質偏重のやり方では世界各地でいつまでたっても紛争が絶えません。

現在の民主主義も、もし各々の国民が国が良くなることよりも「今だけ、金だけ、自分だけ」といった、我よしの考えだけで政治家を選ぶようになれば、当然選ばれた政治家も我よしの考えになります。現在の官僚や政治家のレベルそのものは、良くも悪くも我々国民のモラルが反映されたものに他なりません。

このように、その原点に日本古来の和と助け合いの心がない場合は、弱肉強食や我よし主義はもちろんのこと、自由競争、資本主義、貨幣経済、能力主義、合理主義、国際化、グローバルスタンダード、TPP など、現在どちらかと言うともてはやされている考え方でさえ、実際はその通りにやっていると、意外なことに他の人々を、周囲の誰かを、他の企業を、他の国を踏み台にしない限り、いずれ立ち行かなくなるものなのです。

しかし、和と助け合いの心「大和心」を中心に据えてやっていると、最初はパッとしないくても末広がりに良くなり、いずれ共存共栄の弥栄（いやさか）の状態にいたりします。

そして私なりに考え、到達した答えが日本古来の和と助け合いの心「大和心」を重視した経営手法です。大和心とは全てを包み込む心、自分や家族と同じように他を愛する心のこと。これを実践していくことが、今求められる経営だと確信しています。

## 「オリンピックや大震災の時に発揮された大和心」

今回のロンドンオリンピックを振り返ってみても、「大和心」を実感させられる場面が多くあったように思えます。例えばフェンシングです。個人戦ではメダリストは生まれませんでした。フルーレ団体では見事銀メダルを獲得しました。この他にも、アーチェリーや卓球の女子団体、水泳（メドレーリレー）、バレーボール、サッカー等、チームスポーツの躍進が目立つ大会だったと思います。

また、東日本大震災の時もあの極限状態の中、被災者の方々は少ない物資を分け合ってお互いに助け合い、肉親を亡くした方々や行方不明の方々も多い中、今にも崩れ落ちそうな心をお互いに支え合って、何とか生き抜こうとする姿は、日本人のみならず世界中の人々に少なからず感動を与えたはずで

このように、日本人はたとえ一人ひとりの力がそれほど強くない場合でも、和になってお互いに助け合うといつでも最高の力を発揮します。それはスポーツや震災の時だけではなく、政治や経営にも当てはまります。この和の力を最大限に発揮するには弱肉強食、競争や対立、我よしの心ではなく、和と助け合いの心「大和心」が絶対に必要なのです。

そして、「大和心」を育てるためには何よりも明るく前向きであり、さわやかでこだわりなく、自分のことだけを考えず、他の人々に対する感謝と慈愛の心を忘れずに、そして他の人々に対する懐の深さと大きさが重要だと思

## 「大和心が浸透した理想的な共存共栄の世の中」

私の考える理想的な社会とは、見た目や能力や権力や財力ではなくモラル（徳）の高い人ほど上の立場にいくような社会です。自分の上司や先輩が自分より、常に明るくさわやかで慈愛に満ち、懐が深く大きければ、誰だって人間関係で悩むことも無いし、毎日働くのが楽しくて仕方なくなるでしょう。

「大和心」が浸透した組織は末広がりに良くなっていく、どこかで立ち行かなくなるといったことはないのです。そのことを世界の人々に身をもって示すことができるのは他ならぬ日本人であり、それこそが日本の真の役割、真の国際協力ではないでしょうか。

そんな願いを込めて、「明るく、さわやか、慈愛、そして懐の深さと大きさ」というモットーのもと、この「青春リハビリテーション」という明るく前向きでさわやかな言葉（特許庁から平成21年3月13日に特許取得済）とテーマソングである、「ありがとう」という感謝と慈愛の言葉で始まるノソラの「優しく強く」を岩手を中心に日本全国の方々に少しでも知って頂ければと思っております。国民県民の皆様、まことに至りませぬ私ではございますが、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しく御願

以上が2012年11月23日勤労感謝の日に朝日新聞の青森・秋田・岩手版に意見広告として掲載された内容です。

世界の夜明けが近づいて来ています。その鍵を握るのはまさに日本古来の和と助け合いの心「大和心」だと確信しています。

もうそろそろ、憎しみの連鎖や奪い合いの世界は終わりにしましょう。

みんなで手を取り合って、肩を組み合って、誰もが楽しい共存共栄の弥栄（いやさか）の世の中を実現しましょう。国民の皆様が「大和心」に真に目覚めれば決して不可能ではありません。